

執筆者紹介（掲載順）

岩坪健（本学教授）

佐藤未央子（早稲田大学文学学術院客員次席研究員）

杉岡歩美（本学嘱託講師）

加藤大生（本学大学院博士後期課程在学学生）

山本佐和子（本学助教）

翻刻の会（本学学部在学学生と本学教授山田和人）

山田和人（本学教授）

編集後記

本号は、文学についての研究論文四本、資料紹介が三本という構成になった。恒例の国文学会彙報も収載している。

彙報の卒業論文題目のデータ入力には、毎年、大学院生の力を借りている。凡そ作者・作品の時代順で、各時代専門の院生が協力して並べてくれる。今回は連絡ミスで編集が順を整えることとなった。インターネットや事典では、作者の生卒年や作品の成立時期の情報は何となく得られるもの、ジャンルや作品・作者間の影響関係、各時代の出来事との関わり等を総合しないと、専門家には違和感のある並びになってしまう。日本文学・日本語学の研究者は、自分が専門とする時代とそれ以前は把握しているが、以降は。現代との境目が茫漠としている。編集担当は二人合わせても十八世紀が下限で、以降は専門の教員の力を借りることになった。

前々号の編集後記で、会員諸氏に人文学的にものを考えることについての意図があるのかを問うたが、図らずも編集自らが人文的にものを考えざるを得ない作業となった。既存の枠組みでは情報化できない雑多な事柄を何とか整理し、他の事柄との関連性を見出して新たな見方を示すことが、今私達に求められていることかもしれない。今後も、会員諸氏の意欲的な研究成果をお待ちしている。